

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500063		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス前沢		
所在地	〒029-4209 岩手県奥州市前沢区あすか通四丁目8番地15		
自己評価作成日	平成 24年 1月 17日	評価結果市町村受理日	平成 24年 4月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391500063&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 24年 1月 25日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は認知症の主症状と周辺症状を理解し、生活歴や個々の性格を日々のコミュニケーションの際には念頭に入れている。共同生活として、入居者様のエンパワメントを職員の手でなくさないよう、入居者様方も共に協力しやすい環境を維持できるような日々を大切にしている。また、地域に根ざした事業所として地域からの御協力もいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、新興住宅地の中央に位置し、周辺には、駅、公園、公民館、大型店等がある。居住地域には自主防災会、厄年蓮、近隣住民との連携等々、恵まれた環境を活かしながら利用者の外出や楽しみにつなげている。職員は、利用者の「その人らしい笑顔」を引き出す理念に向けて、出来るだけ多くのことに携わってもらいながら、達成感や満足感を笑顔に変える場面を大切に、囁きやつぶやき等の細やかな言動や場面を「評価・分析カード」に表し、一人ひとりの深い理解につなげている。更にはセンター方式が活きるケアマネジメントと重度化に向けた具体的な支援・対応について検討を加えたいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

平成 23 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護職員の手で「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」という、わかりやすい理念を掲げ、日々それを実践している。	七夕の短冊に「笑顔」の願いを書いた利用者の二文字に共鳴し、職員の手で理念を掲げ、掲示、申し送り、ケース記録等につなげながら、笑顔の絶えないケアや馴染みの人、場所としての雰囲気づくりに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会員として活動協力をしている。事業所行事や救命講習受講を地域の方々にもご参加いただいている。近隣の保育所や地元の厄年連、商工会とも交流がある。	リサイクル活動や地元厄年連、商工会等幅広く地域住民との交流促進を図っているほか、ボランティア、園児の訪問、高校生の福祉体験学習を受け入れている。散歩時や公園内での挨拶や立ち話、野菜等の差し入れを通じたお付き合い等日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自では行っていない。昨年度は地域居宅介護支援専門員研修会に発表者として御招待いただき、事業所の取り組み内容を報告している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動実績報告の場としている。事業所行事のポスターの配布等御協力いただいている。近隣公民館の防災訓練を共に開催する予定である。	定期的に開催され、意見や要望が運営に反映されているほか、市・ふれあいセンターのイベント情報を得る機会となっている。次回の避難訓練を公民館と合同で行う計画等、居住地域を同じくし、利害を共にする自治、風習、習慣等と深く結びつく話し合いや行事開催、交流の広がりをめざし、地域に開かれた運営に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当課長様にも参加いただいている。他、近隣グループホームと合同にて様々な情報をいただけるような機会を得るよう心がけている。	申請等で市の担当者を訪ねるほか、推進会議で市の担当者からの情報を得ている。なお、県グループ協会が開催する研修参加や地域ケア会議が情報を得る機会となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、それ以外の身体拘束は基本的にありえないとし、職員が共通認識を持っている。	「身体拘束とは・虐待とは」の意味を理解し、その弊害については職員間で研修を重ね理解を深めている。日中の施錠はせず職員が利用者の出入りを把握し見守り対応しているほか、近隣からの協力を得られる関係も出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に、ありえない事柄であるとし職員は勉強会を通じて理解を深めている。			

[評価機関：特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる可能性がある利用者が現時点では居らっしゃらないが、制度の理解を得よう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでの間、不安や疑問点に対しての連絡を密に取っている。契約時には解約となる場合の条件についても説明し、またその可能性が出てきた際もあらためて説明し、相談をしていただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、不満、苦情を表出できるよう信頼関係の構築を最優先に取り組んでいる。家族や面会者にも意見が表出しやすいよう、質問箱の設置やケアプラン更新時に意見、質問の記入をお願いしている。	利用者の意見等は日常の関わりの中で把握するように努め、家族からは、定期的に発行している「生活情報」を話題にしながら面会時に意見や要望を聞き、把握した意見等は運営に反映させている。ホーム内に意見箱の設置もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と共に介護業務に入り、介護現場の把握に努めている。また職員間での報告、連絡、相談のための申し送りノートを常時活用しており、反映させている。	日頃から職員が意見等を言いやすい雰囲気づくりに努め、申し送りやミーティング・職員会議等で得た意見・アイディア等は、母体の支援も受けながら運営に反映できるよう努めている。なお、勤務シフト表は職員の都合を優先している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割の作成時に休日希望を全職員に尋ね、可能な限り休日としている。事業所行事などは職員主導でおこない管理者からのトップダウンは極力控えるように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として勉強会を開催している。基本的な意識やコミュニケーション技術などは働きながらトレーニングしていくこととし、自己トレーニングを促すため段階的に仕事量を増やすなど工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に入会しており、管理者は交流等おこなっている。また同系列のグループホームが市内と隣接町内にあり、職員は他職員との交流する機会がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から可能な限り面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていることの把握と受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、入居前から可能な限り面談する機会や電話連絡の機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていることの把握と受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネジャーを介しての入居申請が多く、各々の御事情から他サービスよりグループホーム入居が適している状態の方々との判断され申請時にお話いただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は利用者と共に摂る。日々の業務になかに常に談話する機会がある。食器拭き、テーブル拭きなど入居者様が主体の家事がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関への通院援助を御家族様にさせていただいているところが多い。また、近隣の御家族様から自宅ですれた野菜を持参いただいたり、遠方の御家族様からも果物が宅配されるなど有難い支援を受けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会に出席できるよう努めている。家族に関わらず利用者の友人等の面会も継続的にある。	地域の方々や友人がお土産を持って来訪し歓談しているほか、ホームの夏祭り等には、厄年蓮の出店や近隣協力者の参加を得ている。行きつけの理美容や地域敬老会、公民館行事等への参加を通して、馴染みの関係が継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話をしやすい環境づくりを進めていく中で利用者間の自発的な関わり合いや支え合いが職員も交えて日常になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係の構築の中で希望、意向の把握は常時行ない事業所の日々のレクリエーションや行事に生かされている。	センター方式の活用のほか、日々の言動や何気ない会話等から汲み取った事柄等を記録し把握に努めている。職員は、常に共感的な態度を保ち利用者一人ひとりのニーズを見極めながら支援につなげている。	センター方式で得た成果や課題について率直な意見交換を重ね、事業所の実態に直結する視点を見出し、センター方式の趣意が活かされるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時は本人、家族、市町村に加え、契約前に利用されたサービス事業所からも情報収集をしている。入居後も継続して本人、家族、失礼にならなければ友人等からも日常会話の中で生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	信頼関係の構築の中で継続的に把握に努め支援に活かされている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族へは郵送で計画内容素案を提示し、意見を記入いただける体制をつくっている。	記録のマンネリ化を排除するために(評価分析シート)を作成し、援助の過程や状況の変化を総括し介護計画の改善や見直しに活かしている。なお総括することは、職員個々の支援や対応の成果評価にもつながるという認識で取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤職員で個別記録を毎日記入する。それと併用し申し送りノートも活用し情報共有と考察に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様が遠方に居られる場合や様々な都合に応じて行政への申請代行や保険証関係書類の送付先変更など対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体として複数の団体から踊りや歌の訪問をいただいております、そこで知人に再会したりしている。家族との外出も許可しており、一緒に外食をされたりする利用者もいらつしやる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医の利用を基本としている。定期受診以外でも各々の医療機関には相談にのっていただいている。	通院は原則、家族対応としている、医師には日常生活状況を提供し、受診後の状況は家族から聞き、連絡ノートに記入して職員間で共有している。なお歯科医については往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいない。かかりつけ医院では、看護師に各々の利用者のケアについて助言をいただくことがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は頻繁に医療機関に出向いている。看護師等病院関係者と頻繁に情報交換をし、関係づくりに繋がっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療機関において常時、治療を有する必要となった場合は退居の条件となっている。終末期ケアはハード面、マンパワー面から現状不可能である。	その時の状態変化により、個別的に対処対応していくことを説明しているほか、重度化への対応としては、家族の望む方向性を慎重に話し合いながら、段階的に進めていきたいとしている。	利用の長期化等により重度化が予想されることから、ホームで対応できることや出来ないことを明確にしホームの考え方、方向性について説明する機会を随時持たれることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、普通救命講習を受講している。救急車の要請なども実践した職員は流れを把握し次に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施している。訓練時は地域の住民に参加いただく他、地域の自主防災会より災害時の応援承諾を得ている。	これまで自主防災会の助言協力や近隣住民の協力を得ながら実施している。次回は、公民館との合同訓練ということで、避難に関する見直しの機会としたいとしている。なお、地震マニュアルの見直しながされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が自らの個性と向き合い、照らし合わせて考えていくことで、利用者の個性の尊重を根付かせ冷静な対応を目指していく。	受容的、共感的な態度を保ちながら、利用者の笑顔を引き出せるような支援を心掛けている。特に、排泄行為はプライバシーや心理面、精神面への影響を受けやすく、生活リズムを狂わすことにつながるという共通認識に立って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意見、不満、苦情を表出できるよう信頼関係の構築、また、その雰囲気づくりを最優先に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は本人の望む美容室に通っていらっしゃる方もいるが、職員による散髪を望む方が多く望まれた時に望対応している。おしゃれも職員と会話しながら楽しく考えている利用者が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事後の食器拭きは入居者様の日課になっている。調理も希望される場合や職員から依頼して一緒に行なうことがある。	利用者は箸やカップ等好みの物を使い、食前にはおいしく食べるための口腔体操をしている。献立は糖尿病や高血圧等に配慮しながら利用者の要望や旬の食材を取り入れるなど工夫し楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて栄養補助飲料を購入したり、各々水分摂取を促す工夫を個別におこなっている。栄養バランスは栄養士作成の献立を参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに誘導が必要な利用者への誘導や支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表、生活状況の観察からパターンを把握している。	利用者全員排泄については、チェック表で個別のパターンを把握し、プライバシーに配慮しながら自立にむけた声がけや誘導支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼らず、水分補給や日々の体操に力を入れている。市販の食物繊維パウダーを料理に加えて工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日ごとに対象者を決めさせていたが時間帯は利用者の希望に添えるよう努めている。	入浴時間は個別的な希望を取り入れながらも、週3回で実施している。職員は全身の観察や皮膚の観察等のほか、コミュニケーションの良い機会ととらえ、個別ケアにつなげている。好みの入浴剤の香りが利用者の楽しみに繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室にて落ち着いて就寝できる環境である。日中も滞在場所が居室や和室、ホールなど各々で個々に合わせた場所にて休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時は処方説明書を全職員が閲覧しやすい場所に備えられている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみを行う際、リーダーシップをとる者や助言を受けながら取り組む者など分担が自発的におこなわれている。他にも職員が其々の個性を把握し楽しみごとの提供に工夫を凝らしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。その中には戸外への散歩やドライブも含められている。事業所行事では中距離のドライブも実施している。	暖かい季節には、公園、コンビニ、100円店、ジャスコ、駅、公民館などが近く、恵まれた施設周辺を活かした散歩・買物等や畑での作業を楽しんでいるが、冬場は減少の傾向にある。盆、正月の帰宅宿泊などは継続支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望を優先に考えており、現金所持されている利用者もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族への電話を希望される利用者の希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強すぎる照明を当てない、天井を高くする、大きな窓を設置する、風の通りを良くするといった工夫の他に、キッチンからの御飯が炊ける匂いがすぐ届くようにといった工夫をしている。	共用空間は、みずき団子、共同作品、絵画、人生訓などが飾られ、全館床暖房で高い天井の窓からの採光や換気が心地よい。利用者は、テレビや健康体操、歌を楽しんでいる。対面式の調理場からは香りや音、会話を楽しむことが出来るなど、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や窓辺のスペースなど居室以外でも個々に過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約前の居室には中型のダンスとカーテンのみの設置としており、ベッドなど好みのものを持ち込ただけのようにしている。	馴染みのものを持ち込むよう家族に働きかけている。備え付けの整理筆筒の上には、誕生祝の造花、時計、キーボード等が置かれ、壁面には、孫の作品、表彰状など飾られ、清潔感の保たれた安心、安眠につながる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台には車椅子利用者でも届きやすい高さになっている箇所がある。廊下やトイレには手すりや立位バーが設置されている。		